うるわし通信

一般社団法人
うるわしの桜井をつくる会
〒633-0091　奈良県桜井市
桜井1259エルトさくらい内
TEL&FAX:0744-43-7773
URL：http://lets.some.jp
E-mail：lets@some.jp

令和7年7月

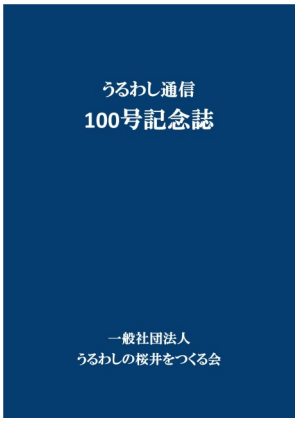
本会結成15周年に当たって

21世紀は平和の世紀へとの願いも空しく世界各地で戦乱が絶えず、大国が自国利益優先の無理難題を振り回して混乱が続いています。

堀井理事長

今年の総会では映画の上映をしたが、大宇宙の中に浮かぶ小さな点のような水の惑星、かけがえのない地球という小さな孤独な粒のなかでひしめき合って闘う愚かな生き物が自分の姿だと人類は自覚しなければならないと思います。

さて当会は今年で設立15年目になります。住んで良い町、住みたいまちをつくろうと志を掲げ、景観保全、記紀万葉プロジェクト、シンポジュームや講演会などの活動を通じて一定の成果を挙げることが出来たのも関係各位の熱意とご尽力のおかげと感謝いたします。うるわし通信もその取材過程を通じて地域のまちづくり推進に寄与するなど具体的成果を生み、うるわし通信100号記念誌ははからずも桜井地域のあゆみの歴史的資料となりました。



しかし15年の歳月は新たな課題を提起しています。桜井市の人口は減少をつづけ2045年には3万人台と予想され縮小社会の社会課題への対処が急務となってきました。山間地域では空き家が増え、耕作放棄地は藪と化し、野生動物が進出し、独居老人世帯が増え、買い物難民が日常生活に支障を来しています。

しかし考えて見れば明治維新の時の日本の人口は僅か3400万人だったのです。そんな東洋の貧しい小さい国が坂の上の雲を目指して先進列強と渡り合ってきました。第2次大戦で壊滅的被害を受けた戦後の人口は7200万人でした。日本人は必ずやこの人口急減少子高齢化の波も乗り切って新しい時代をつくって行くことでしょう。

その復元力の小さな芽吹きを身の回りから発見して連携し、育てる努力が求められています。点を線に線を面に育て地域の可能性を発掘し定住人口、訪問人口を増やしてゆくためには官民協力しての支援体制が必要です。必要な地域には特区指定の条例制定も有効な手段となります。市政70周年を機に心を新たに取り組みを進めましょう。

一社）うるわしの桜井をつくる会 理事長 堀井良殷

うるわしの桜井をつくる会自主上映会に参加して

うるわしの桜井をつくる会定時総会終了後に、「Pale Blue Dot 君が微笑めば、」の自主上映会が開催された。2023年に西嶋航司監督が手がけた4Kドキュメンタリー作品で、『地球の表面の70%は水で覆われている、そして人の身体も70%が水である、だとすると我々の最も深い感情や思想もひょっとすると、水が感じ水が考えているのかもしれません。西嶋』この言葉のとおり、本作では森羅万象の姿に習い、「水」と「いのち」との神秘的な関係を、科学者、宗教者、物理学者、それぞれの観点から語る映画となっています。

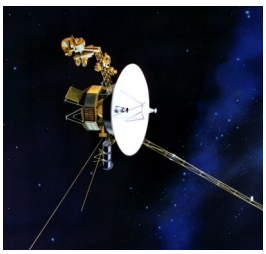
冒頭で宇宙空間に浮かぶ小さな点が映し出される。Pale Blue Dot（ペイル・ブルー・ドット）は、ボイジャー1号によって、1990年に地球から約60億kmのかなたから撮影された地球の写真である。この写真では、広大な宇宙に対して地球は0.12ピクセルの小さな点でしかない。

ボイジャーは当初の目的を達成して太陽系を離れるところであったが、アメリカ航空宇宙局（NASA)の指令によってカメラを地球に向け、この写真を撮影した。撮影された地球が淡く青い点（a pale blue dot）であったことからこの写真自体が「Pale Blue Dot」と名付けられた。

『すべてのみえるものは、みえないものにさわっている。きこえるものは、きこえないものにさわっている。感じられるものは感じられないものにさわっている。おそらく、考えられるものは、考えられないものにさわっているだろう。』ドイツの詩人ノヴァーリスの引用がキーワードとなり、美しい映像と優しい語りでまとめられ、ボイジャーと共に壮大な宇宙空間を旅したような心情に立たされる映画でした。

参加者アンケートには、「水のこと鏡のこと命のこと、考えることが多く深い映画でした」「生きていく神秘、水は鏡、心を映す人間の姿に深い感動を受けました、知らないということは勉強、これからの人生に光が射してきました」など記載されており、有意義な上映会となった。

＊ボイジャー1号：木星と土星の探査を目的に1977年9月5日に打上げられ、2012年8月には人類史



上初めて太陽圏を脱出した。地球外知的生命体や未来の人類が見つけて解読することを期待して、地球上の生命や文化の存在を伝える音や画像が記録されたゴールデンレコードが収められており、2025年現在は時速6万kmで星間探査を続け、今もなお歴史を塗り替え続けている。

（事務局　ひがし俊克）

桜井市誕生70年（2026年9月1日）に向け
市民によるまちづくりの視点で、準備しよう！！

桜井市は今、少子高齢化と地場産業の衰退による地域活力の減退と人口減少に直面している状況を、多くの市民は感じている。本会の「うるわし通信」（105号～109号）で紹介してきたように、地域課題に向き合うまちづくり活動や、奈良県との包括協定に基づく諸事業も進められている。

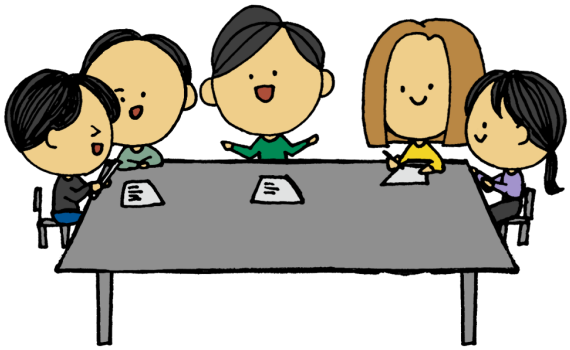
しかし、10年前の『市政60周年』で示された今後の桜井市の方向性の具体化は、地域活性化にどのように繋がってきたかの点検が必要となっている。

【市政60年を伝える広報】

急速に進行する少子化に対応して、前号の「編集子」が指摘したように、桜井市の2024年の新生児数は、300名を割り、数年後に全ての小学校で低学年（1～3年）では、1クラスという状況に直面することが予想される。

昨年12月におこなわれた市のパブリックコメント（市行政の今後の施策について市民の意見募集）の項目は、「桜井市立小中学校適正化実施計画」、「第3期桜井市子ども・子育て支援事業計画」、「桜井市立保育所・幼稚園の再編に向けて基本計画」など、少子化にともなう教育・保育現場の再編や子育て支援策についてであった。69年前に桜井市が誕生し、高度経済成長期に人口の増加（初瀬町や大三輪町の合併を含む）やそれに伴う公共的な社会資源整備がおこなわれてきたが、今日の状況は新しい発想に基づく市民の参加、さらに市民主導の地域づくりを行政とのパートナーシップで行っていくことが必要になっていると考える。このような活動は、既に先進的な市民活動や人権運動を通じておこなわれて来ていることであるが、その裾の広がりを、市政70周年に向けて準備作業を進める時が来ている。

桜井市行政や市議会においては、記念イベント（行事や式典）として70周年を迎えるだけではなく、市民の新しい活力を引き出す機会づくりとして準備を始められることを期待する。



うるわしの桜井をつくる会としても、市の市民活動交流拠点の発足に寄与した経験を踏まえて、桜井市誕生70年を来年9月に迎えるにあたり、市民の知恵と努力を結びつける場づくりを、後日呼び掛けたい。また、次ページの提言等への積極的な返信をお願いしたい。

（編集子　楠木）

桜井市誕生70年を迎えるにあたって

1956年（昭和31年）9月1日に磯城郡桜井町が同郡大福村と香久山村を編入して、桜井市制が誕生し、令和8年9月1日には70周年を迎えます。

そこで「あなたの桜井の過去・現在・未来についての思い」や、「桜井市誕生70年を迎えるにあたっての意見や提言」「今後の桜井で実現したいこと」また、「当時の思い出の写真も大歓迎」です。70周年の節目に、桜井にまつわる思いや願いをぜひ聞かせてください。

対象者：市内外在住どなたでもご応募いただけます。（匿名可）

募集期間：令和7年7月1日（火曜日）から令和7年8月31日（日曜日）

応募方法：下記のマスへ記入し、郵送かFAXで送付

Eメールでも受付けています

連絡先：うるわしの桜井をつくる会事務局：〒6330091 桜井市桜井1259番地

FAX：0744-43-7773　E-mail：lets@some.jp

＊提供頂く写真は、スマホ等でのコピー（JPEG）データーでお願いします。

切り取り線

桜井の過去・現在・未来についての思い等

桜井市誕生70年を迎えるにあたっての提言等

あなたのお名前（　　）　匿名でも結構です

連絡先（TEL　　：Email　　）

年齢（　　歳台）　住所（　桜井市内　・　市外（　　）

ご協力ありがとうございました。

うるわし通信発行人
ひがし俊克
TEL：090-3652-8104